

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 9 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205588		
法人名	株式会社 広島厚生会		
事業所名	グループホーム広島萬象園		
所在地	広島県広島市中区羽衣町1-26 (電話) 082-246-3260		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470205588-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年9月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

高齢者複合施設として、シルバーマンション、有料老人ホーム、グループホームの入居施設があり、住み替えが可能。また、デイサービス、ホームヘルプステーションの介護サービスも同施設で行っている。毎月開催される行事を通じて施設内の交流を深めている。健康面では、広島厚生病院のサポートがあり定期的に内科や歯科の往診がある。有料老人ホームの看護師と連携をとりながら日々の体調の変化に対応している。グループホーム内では、入居者の意思を尊重し、安全安心を基本とした日常生活を提供している。一人一人の「できること」「援助が必要なこと」を見極め、出来る自分を心地良く感じてもらい残存機能を維持できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ここ1年間頑張ってきた事は、まず同じ高齢者複合施設内にある有料老人ホームとの合同クラブ活動の充実化である。月曜日は園芸クラブ・どっぷり体操クラブ、火曜日は生け花クラブ、水曜日は料理クラブ、木曜日はお洒落クラブ（足湯と化粧）、金曜日は手芸クラブ、土曜日は映画クラブ、日曜日の午前はお散歩クラブ、午後は活き行きクラブ（ドライブ外出）と多様な活動を展開している。介護度や趣味に応じて、適したクラブを提供支援しており、利用者の笑顔が増え、有料老人ホームの利用者との交流も生まれた。その結果、生け花クラブで活けた自分の花の水を替えるのが日課になったり、ホームでは手を動かすのが難しい利用者が、合同で行う、どっぷり体操クラブでは普段とは違う動きをすることができるようになった例もある。次に、納涼祭・クリスマス会の行事の開催日に運営推進会議を併せ開催し、家族の参加をし易くした事である。それまでは、家族の参加も少なかったが、行事の料理を利用者・家族・職員の共同で作ることで、馴染みの関係が強化され、更に普段は顔を合わせる事のない家族同士も介護者としての立場から各々の思いを話し合う姿が見られるようになった。今後の課題として取り組むべき事は、運営推進会議の充実と働きがいのある職場作りのため職員のストレス・マネジメントにあると、管理者は考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「地域社会に愛され役立つ施設として、利用者それぞれの尊厳を守り、生活意欲を高め充実した日々、安全な生活を快適に維持し実感していただく」という法人理念を会議で取り上げ、職員一丸となり施設を運営している。	法人福祉部門の理念を基に、今年3月の事業所内研修会で、職員の意見を集約し、事業所理念「1人ひとりの思いを繋ぐ架け橋になる」を策定した。それを指針として、利用者毎の観察点や個別の特別プラン等のケア項目における実践を、毎日介護記録に残し、介護計画の見直しに繋げる事で、理念の達成状況の評価を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域内の公共の場への日常的な外出や、商店の利用、地域行事への参加により交流を持っている。また、地域住民の参加を目的に、萬象園まつりや音楽会を開催し、地域とのつながりを深めている。	事業所は、町内会に加入し、とんど祭り等の地域行事に積極的に関り、地域に溶け込む努力をしている。また、事業所が入っている高齢者複合施設の母体法人主催の萬象園祭りでは、露店も出して地域住民との交流を図っている。今夏、敷地内で開いた子供会の花火大会では、2年前に保育園児として参加した子供達が抵抗なくお年寄りと触れ合う姿も見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話相談や施設見学、介護サービスの利用相談に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者、家族、町内会役員、地域包括支援センター職員の参加で偶数月に開催している。運営全般について報告を行い意見を頂いている。新たなことを始める場合も会議に諮っている。また、事故や苦情についても明らかにしている。	運営推進会議には利用者・家族の他、地域住民代表として、地域包括支援センター職員をメンバーとし、定期的で開催されている。会議では事業所の現況・行事報告等が、一定の意見交換・情報交換と共に行われ、サービスの質の向上に繋げる努力が為されている。また、開催日に合わせて納涼祭・クリスマス会を開き、家族が参加しやすい配慮と共に不参加の家族にも議事録を送付している。	ただ、議事録の質疑応答欄の内容を見ると、活発な意見交換の場とはなっていない様である。従って、会議をより活性化するため、同じ建物に居住するシルバーマンションの住民や町内会の関係者等様々な職種の地域住民に参加してもらい、多面的な議論を可能にし、また議事内容についても会議の趣旨にあった物を選定・進行する案等、再検討し、有意義な会議として開催する事を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	日頃から利用者の利益のために、サービス内容についての問い合わせ対応等を行っている。また、市が主催する研修会に参加し、施設内でも勉強会をおこなっている。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加し、情報の共有化が図られている。また、その議事録を市担当者に送付すると共にグループホームの制度内容について相談や助言を求める等、良好な関係が築かれている。更に市主催の研修会にも参加し、サービスの質の向上に繋げる取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	居室に鍵は無い。日中はベランダの施錠は行わない。ベランダで植木に水をやったり、草取りをする入居者もいる。身体拘束については福祉用具の使用や居室変更による環境整備、ケアの統一で対応し、止むを得ない場合に限定している。	内部研修等を通じて、職員は「身体拘束をしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で、実践を重ねている。例えば、床にセンサーマットを設置したり、見守りし易い居室に転室したり、安全な動線を確保できる位置にベッドを移動してリスク管理を行っている。当り前の生活をするための特別な工夫に取り組んでおり、緊急止むを得ない場合にのみ、身元引受人の同意のもと、介護衣や安全ベルトを使用することもある。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	外部の研修会への参加や、施設内で権利擁護、プライバシーの保護、虐待についての勉強会を実施している。サービス向上委員会では、実際の事例を通して職員全体への啓発活動を継続的に行っている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	集団指導等の外部研修で学び、職員へ周知している。相談があれば各種機関の資料を準備し説明のうえ相談先へつなげている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	重要事項説明書に沿って説明し、ご理解頂いた上で契約書に署名をお願いしている。電話での問い合わせにも丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	運営推進会議で質疑し、議事録を開示している。苦情は施設以外の公的機関へ申し立てが出来る事を伝えている。苦情は受付後、解決まで対応し、対策が継続して行われているかの確認も行っている。	利用者の意見、要望は日々の職員との会話を通じて把握し、家族とは面会時、ケアプランの更新時や運営推進会議などで、利用者毎の担当職員や管理者が積極的に聴くように努めており、介護記録にそれを記載し、職員間で共有している。入居時に重要事項説明書で、苦情箱の設置や外部の公的機関への申し立て等の苦情処理体制の説明も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>行事、日課、業務内容、入居者の思い等は、会議や各種委員会で意見交換を行っている。入居者がよりよい生活を送れるよう、職員皆で努力している。</p>	<p>月1回のユニット合同フロア会議や安全・介護サービス・生活環境の3委員会でのケアや業務に関する意見や提案を聞く機会を設けている。また管理者との普段の会話や半期毎の個別面談を通して、個人目標の進捗状況や業務上・職場関係での悩みなどに対する支援体制をとり、職場環境の調整を図っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>半期毎に個人面談を行っている。各自のレベルに応じて目標を立てている。経験や習熟度により責任のある職位を任せバックアップしている。資格の取得のために個人学習をする場合、勤務に配慮をしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修への参加と、施設内学習会を2本立てで実施している。施設内学習会は、介護、医療、接遇と各種のテーマで系統を立てて行っている。新人学習会も4月から12月にわたり、実施している。また、資格習得を奨励し、自己学習については休務の希望を受けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>居宅や他の施設と交流をしたり、定期的な委員会の報告会や勉強会を行ったりしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に本人と面談を重ね、表情や仕草から心情を汲み取る努力をしている。家族からも情報を得ながら職員間で共有している。施設の見学も勧めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	内容によっては、家族のみと面談する機会を設けている。今までの関わりを労いながら傾聴するようにしている。本人、家族双方が無理なく生活が継続できるよう、時間にゆとりを持って要望を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すぐに入居したいという希望で相談に来られるケースが多い。面談の際、生活するにあたって、有料老人ホームやシルバーマンション等の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	年長者としての尊厳を守り、できることを称えている。料理では職員は教えて貰いながら一緒に行っている。他に洗濯たみ等家事等役割を持ち、達成感を味わい、快を感じてもらう日常を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時本人の様子を伝えている。暮らしに必要な物などの依頼をして本人との繋がりを設けている。家族と過ごす時間が生活の上で大切と考え、面会や外出のサポートをしている。時に、家族も一緒に行事やレクへ参加し楽しめる時間を共有して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	美容院への外出、家族との外出、自宅への外泊、親族や友人の面会等、自由にして頂いている。	重度な状態の利用者を訪問した家族に対しては穏やかな団欒が過ごせる様、配慮したり、利用者の墓参りに同行する家族に対しては、体調管理や排便状況の助言することもある。また、利用者が孫の結婚式に出席出来る様、外出用の押し車や靴の購入の相談、制限食の助言も行った結果、今では結婚式の写真付き葉書を居室に飾り、アルバムを見ては当時を喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の人間関係が良好に保てるよう、職員はトラブル回避の仲介をしながら、気の合う方を見つけられるよう努めている。場合によっては、ユニット間で居室変更を行うこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えをされた方など、不定期だが会いに行き、本人の状態に応じて、声かけを行い、過去の居住空間を思い出すきっかけを作っている。家人に出会った際も話を傾聴している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを知り、介護計画を作成している。意思の表出が困難な方は、家族から生活歴や生活習慣等の情報を得て、本人の言動や表情を探りながら職員間で検討している。	契約時のアセスメントや家族からの情報を基に利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。例えば、お茶の時間の際、「今度も買い物に行きたい、いろんな物の中から選びたい」希望を聞いたり、食材の買い出しの際、近くのパン屋で希望されたおやつを買って楽しむ事ある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時から情報収集に努めている。入居後も関わっていた事業者、本人、家族から情報を得て、住み替えのダメージが軽減できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活習慣の違い、理解度、疾病の度合い、疲労の感じ方には個人差があるので、一人一人のペースで生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の思いを確認し、医師、看護師、栄養士等と連携を図り、本人が「できるという心地良い気持ち」を持てるような介護計画を作成している。変化があれば都度見直し、職員に周知している。6ヶ月で短期目標を、12ヶ月で長期、短期目標の全てを評価し、生活援助に反映させている。</p>	<p>利用者毎に担当職員を決め、随時職員間で話し合いをしながら、モニタリングを実施している。それらの情報と面会時や電話で聞いた家族からの情報を管理者が集約し、カンファレンスを実施している。会議には担当職員・施設長・看護師・管理者・計画作成担当者が参加し、短期目標は半年、長期目標は1年毎に見直しを行って、利用者が達成感を実感できる介護計画に繋げている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様々な生活場面での言動、表情、しぐさを観察し、ケース記録に記載している。日々の申し送りで情報を共有し、新たなニーズやリスクが生じていないかを確認しながら、残存能力維持を目標に本人の力を引き出すような介護計画を作成するよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>食欲の低下した入居者には、献立以外で本人が食べ易い物を準備し勧めている。また、複合施設の特徴を活かし他の階と協力して行っているクラブ活動への参加を勧めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの協力で活気のある音楽レクを実施したり、週1回少人数で地域の図書館や美術館等へ行き、生活の質を高めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、どの医療機関を受診するかを確認し主治医を定めて頂いている。提携病院からは神経内科、歯科の往診がある。年1回は健診を実施し健康維持に役立っている。看護師や職員は、家族や医療従事者と連携を取っている。</p>	<p>入居前の主治医の受診継続も可能で、その際は家族の付き添いが原則となっている。母体法人が協力医療機関となっており、そこから毎月1回の神経内科、適宜の歯科の往診や家族の希望により、年1回の誕生日健診も可能である。また、上階の有料老人ホームから看護師の訪問があり、相談体制も整備されると共に、法人の協力医療機関とも24時間の連携体制が取られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、入居者それぞれの観察点や注意点を熟知しており、毎日の健康チェックの結果や、症状、訴えを施設看護師へ報告相談し、必要時は指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、ほぼ毎日洗濯物を取りに行く事で、不安や混乱が軽減するようかかわっている。病棟の看護師とも情報交換を行っている。退院後は主治医の指示を守った生活を支援している。主治医、施設看護師の助言を得て、安全に生活できるよう援助している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>身体に変化がみられる方は、家人との面会時、都度状況を説明している。身体介護中心となった場合など重要事項説明書の手順で住み替えの話を行い、経過をフォローしている。</p>	<p>利用開始時、重要事項説明書の医療指針にて事業所としての基本的な方針を説明し、理解を得ている。「看取り」は行わないが、重度化した際には、本人・家族・医師・職員と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。基本的には、「入院」により十分な医療支援体制に取り組むことを、その方針としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>看護師の指導で施設内で系統立てて医療学習会を行っている。緊急対応や医療器具の保管場所の把握、緊急搬送時の連絡体制等、実践に向けた学習を積み重ねている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の対処についてはマニュアルを整備している。避難訓練は入居者も参加し年2回実施している。町内会長や民生委員を通じて、地域住民に災害時の協力をお願いしている。</p>	<p>地元消防署も近く、年2回、内1回は消防署立ち会いで、夜間、昼間を想定した避難訓練を、併設事業所と協力し行っている。事業所のある建物は母体法人の高齢者複合施設であり、災害時の対策マニュアルも整備されており、法人全体として連携して災害対策に取り組んでいる。町内会と近隣防災協定を結んでおり、日頃の地域とのつながりを通じて、地域に対し一般的な協力要請を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	サービス委員会の活動でもある接遇に沿った介助を心掛けている。排泄誘導はさりげなく行うようにしている。個人ファイルはヘルパーステーション内で管理している。	介護サービス委員会の今月の活動目標は「言葉遣いに気をつける」をあげ、相手への思いやりある言動を心掛けている。当初利用者本人も「～婆ちゃん」と呼んでほしい意向があったが、人格を尊重して「～さん」での対応をしていると、ご本人の意識も変化してきた経緯がある。更に職員間でも出退勤時の挨拶や呼び名も同じような意識付けが浸透してきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解できる内容をゆっくり説明している。選択肢を準備し、本人の意思決定を尊重した生活をすすめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の入居者の状態、要望、天候によって日課を変更することがある。個別対応が可能な日は外出や外食、買物の機会を持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ビューティークラブで化粧やヘアアレンジをしたり、出張美容で理容を受けたりしている。口紅をつける入居者には、綺麗にしていることを誉めている。外出前は、職員が外出着への更衣や化粧を手伝っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は施設から提供するが、毎週水曜日の昼食は入居者と職員で作っている。野菜の下ごしらえは大体入居者で出来ている。年に2回家族と共に料理を兼ねて食事会を開いている。食材の買物にも一緒に出かけている。食器拭きも職員と一緒にしている。	食事は施設1階の厨房で作られ、ホームで盛り付け・配膳されている。食事の中で嗜好も把握でき、週1回の料理レクの日や家族も参加する夏冬2回の行事の食事会では利用者は、食材の買い出し、調理の下準備など役割に応じた手伝いを職員と共に行っている。また、園芸クラブで取れたトマトが食卓を飾ったり、時には寿司等の外食グルメを楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事開始時間、食事はそれぞれの入居者の生活習慣に合わせている。嚥下や咀嚼の状態により食事形態を変更し、医師の指示の治療食にも対応している。1日の食事量や水分量を把握し、少ない入居者には食事以外で補っている。体重の変化も観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い、歯肉の状態を維持するよう努めている。声掛けや物品を手渡す事で自発的な動作を促している。介助が必要な方については、義歯の洗浄も全て行っている。変化があれば歯科往診時に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	布パンツの使用で着心地のよさの向上の為日中は2～3時間毎に声掛けし、トイレでの排泄を試みている。排泄動作は出来るところまで本人に行なって貰っている。重度の入居者は職員2人でトイレへ移乗している。	トイレでの排泄を重視し、短時間毎に排泄一覧表で、各人の排泄パターンを把握し、誘導をしている。紙パンツから布パンツに改善した例や尿量・時間によって大・小パッドを使い分け、自立支援や費用負担の軽減を考慮した支援を行っている。また、二人介助でもトイレ誘導を行い、尿意回復や離床のきっかけ作りとしたり、夜間、動きを感知するセンサーを導入し早目の対応をする例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的に排便があるよう、医師の指示どおりに緩下剤の内服を介助している。腹部マッサージや温療法を行い通じを良くする等、職員が援助し気付いた事を共有し実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日と時間帯は決めているが、必要があれば時間外での入浴も行っている。入りたいという気持ちを持ってもらうよう支援し、無理強いしないようにしている。	週に2回、午後入浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、階段のある一般浴の他、シャワー浴やお風呂嫌いの利用者への対応など状況により柔軟に対応している。また、リフト浴を利用して「肩までつかれる満足感」を堪能してもらったり、季節によっては、柚子湯の入浴剤で寛いでもらい、会話や入浴を楽しめる工夫も為されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝は夜間の睡眠の様子や覚醒の状態を見て起床の時間を決めている。日中、短時間ソファやベッドで休息をとる入居者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の疾病と服薬内容を理解し、確実に内服できるよう介助している。副作用についても施設看護師から申し送りがある。薬の変更や追加があった場合は、言動に注意し、ふらつきや転倒の危険が無いよう見守りを強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	クラブ活動を通じて趣味を続ける事を支援したり、体を動かすゲームを行ったりしている。レクの中でリーダー的な役割を任せることもある。園芸や家事的動作については、入居者の得意な分野を見極め勧めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出した時の表情が良いことから、散歩、参拝、喫茶、外食、ショッピングセンターへの買物、お花見、野球観戦等の外出の機会を持っている。また、家族と散歩や墓参りに行く入居者もいる。	普段から希望により、少人数で近所の散歩や買い物などを楽しんだり、家族と墓参りや喫茶店に行く事もある。また、「活き行きクラブ」のドライブで美術館や牧場等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。野球観戦では応援のリズムに合わせ、「真っ赤じゃねー」と驚かれ、得点を記憶している等、普段は見られない表情・姿を垣間見る事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	衣類のポケットにお札が入れたままになっていたり、本人が所持している小銭をみると、自宅の家賃が心配で困惑する方が多い。基本的にお金は家人に管理して頂いている。買いたいものがある時は一緒に選び、一旦立て替えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状などを家族へ書いたりする。職員は本人ができない部分を手伝っている。久々に母の字を見たと返事がくる家族もいる。家族からののがきを職員が読み伝えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中、夜間共に照明を調整し、明るい雰囲気になっている。食堂兼リビングは広いベランダへと続いており、明るく開放感がある。室内も室外も花を飾り、季節感を出している。壁には行事予定の張り紙や、入居者の作品、外出時の写真が掲示され、それを見ながら交流が来ている。	食堂兼居間は南北ユニットを繋ぎ、広いベランダが続く開放的な空間となっている。共用空間は、毎日掃除をし、花も活けて、季節感ある清潔で居心地良い場所になっている。フロアの壁には七夕の短冊など、行事担当者と共同で季節感を出す作品も飾ってある。洗濯物も干してあるベランダは生活感もあり、園芸活動や夏のビアガーデンなど「楽しみの空間」ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人で気に入ったソファやイスに腰掛け、新聞や雑誌を見て自分のペースで過したり、リビングのテーブル席で2～3人でおしゃべりをしながら自然に交流を持ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や小物を置いたり、自身の絵や家族の写真を飾ったりしている。また、引き出しの整理を適宜行い、自分で服が選べるよう支援している。	居室には、ベッド・エアコンを設置し、ベッドは利用者が使いやすい機種や配置に工夫している。居室には、引き出しに整理ラベルを張った筆筒や使い慣れた物、また仏壇や家族の写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様配慮している。更に夜間の安全面やトイレ誘導を考え、センサーマットを敷いて、転倒防止を図っている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員と一緒に家事を行ったり、必要な入居者の隣に座りレクを進めたりすることで、できない所をさりげなく助けている。安全重視で管理的にならないよう、申し送りの中でケアの統一のため情報の共有を行っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム広島萬象園

作成日 平成27年10月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の質疑応答が活発な意見交換の場となっていない。	多目的な議論を可能にし、会議を有意義なものとする。	①シルバーマンションの管理人、近隣の住人に参加して頂く。 ②意見交換を活性化する為に、会議の趣旨にあった議事内容を選定し、進行する。	①H27年12月 ②H27年 2月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。